

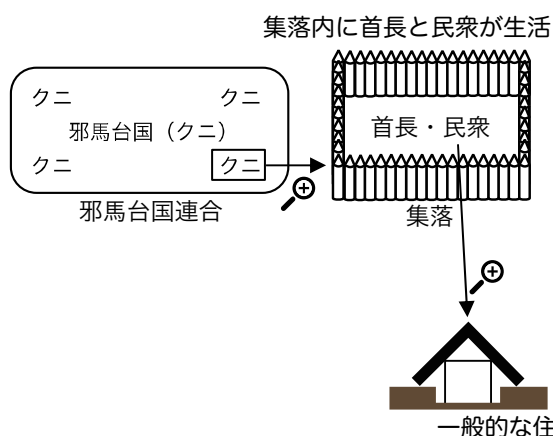
古墳時代の生活

弥生時代から徐々に生じた身分差は、古墳時代にいっそう拡大した。民衆と集落に住んでいた首長は、やがて集落から離れた場所に相当な規模の居館を構え、民衆と対峙していった。また、この時代に「神」「ケガレ」という考えが生まれたと思われる。「神」は後に扱う「仏」と区別するため、この機に確実におさえたい。

○古墳時代の生活

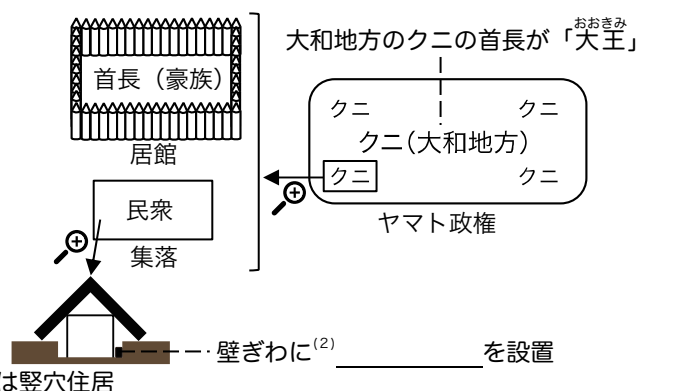
●クニと集落の変化

<弥生時代（3世紀）>



<古墳時代>

集落から離れた場所に、首長（豪族）は⁽¹⁾ _____を造営



●土器

弥生土器と同じ技術による⁽³⁾ _____と、
朝鮮半島の技術による⁽⁴⁾ _____を併用した。

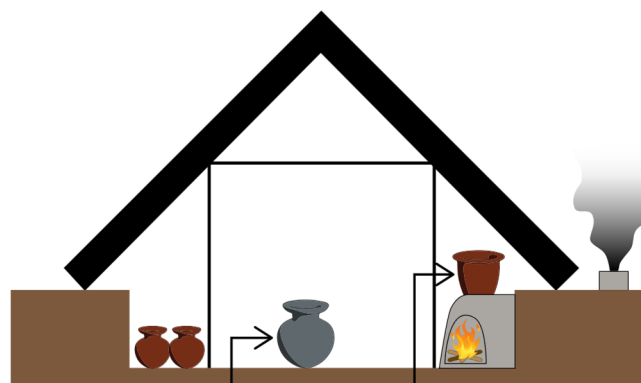
◇(3) …ろくろ・窯^{かま}を使用するため、左右対称で頑丈



図1 土師器



図2 須恵器



水漏れしない須恵器に貯水 火に強い土師器で煮炊き
図3 5世紀の竪穴住居と土器の使用

●男女の服装

衣服が上下に分かれ、男性は衣と「袴」、
女性は衣とスカート風の「裳」を着用した。

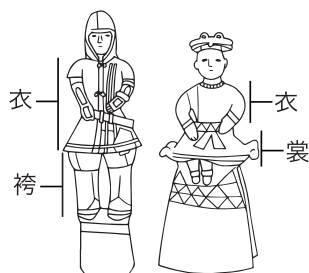


図4 埴輪に見られる男女の服装

●呪術

鹿などの骨を焼き、割れ方で吉凶を占う⁽⁵⁾ _____や、
潔白を誓った後に熱湯に手を入れ、火傷の有無で真偽を判断する⁽⁶⁾ _____があった。



図5 鹿の骨



図6 盟神探湯

●農耕に関する祭祀

弥生時代同様、古墳時代でも農耕に関する祭祀が大切であった。

⇒なかでも、春の初めに豊作を祈る⁽⁷⁾ _____と、
秋に収穫を祝い感謝する⁽⁸⁾ _____が重要だった。



Q. これらの祭祀は「誰」に祈り、感謝するのか？

A. ⁽⁹⁾ _____

●神という存在

人々は⁽¹⁰⁾ _____という考えをもち、
あらゆるものに靈威（魂）が存在すると信じた。



なかでも、次の2つは信仰の対象になった。

①凄さを感じさせるもの（整った形の山・巨木・絶海の孤島など）

②恐怖させるもの（日照り・氾濫する川・落雷・深い森など）

⇒信仰の対象となった靈威が「神」である。

◇信仰の対象となった、氏族の重要な祖先（死者）が氏神^{うじがみ}

◇目に見えない靈威が「神」になるので、当然「神」に姿はなし



神は本来怒り、人々を苦しめる存在とである

⇒祭祀は基本的に、怒った神（例：稲を枯らす日照り）に祈りを捧げ、
普段の神（例：耕作に適した日差し）に戻す儀式である。

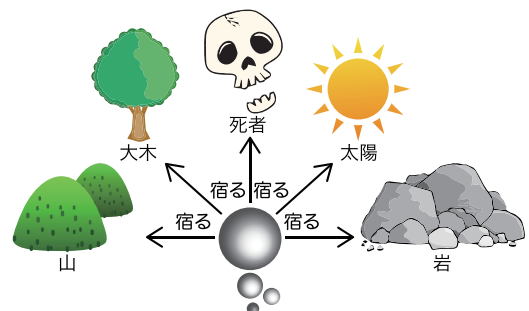


図7 アニミズム



図8 富士山（円錐形の山）



図9 おおみわ 大神神社の神体「三輪山」（奈良）



図10 むなかた 宗像大社の神体「沖ノ島」（福岡）

●風習

死や血に関わる、また単に日常を過ごすことで、

目には見えない「ケガレ（汚れ）」を帯びると考えられた。

⇒ケガレを川などの水で落とす⁽¹¹⁾ _____、御幣を振って落とす⁽¹²⁾ _____がおこなわれた。



図11 禊に使用された五十鈴川（伊勢神宮）

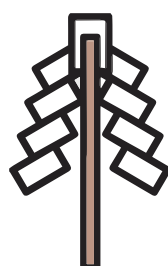


図12 御幣（左）・祓（右）